

北部北上山地，宮古西部地域の葛巻 釜石帯ジュラ紀付加体の地質構造と付加年代

Geologic structure and age of the Jurassic accretionary complexes in the Kuzumaki-Kamaishi Belt, Northern Kitakami Massif

吉原 賢[1], 義元 英晃[1], 鈴木 紀毅[1], 永広 昌之[1]

Ken Yoshihara[1], Hideaki Yoshimoto[1], Noritoshi Suzuki[2], Masayuki Ehiro[3]

[1] 東北大・理・地質

[1] Inst.Geol.Paleont.,Tohoku Univ., [2] IGPS, Tohoku Univ, [3] Inst. Geol. Paleont., Tohoku Univ.

北上山地北部に広く分布するジュラ紀付加体は，含まれる異地性岩体の年代と陸源粗粒碎屑岩の粒子組成の相違から2帯に区分される．西側の葛巻 - 釜石帯は，石炭紀～三畳紀？の石灰岩や石炭紀～三畳紀のチャートを含み，砂岩は斜長石及び火山岩片に富む．東側の安家 - 田野畑帯は，三畳紀～ジュラ紀の石灰岩や三畳紀のチャートを含むが，古生代異地性岩体を欠く．砂岩はカリ長石及び石英に富む．葛巻 釜石帯の構造は西に急傾斜する同斜構造をなすとされていたが，大上(1990)・大上ほか(1993)は，山田町の大谷山鉦山周辺では西傾斜から水平に近い構造であることを明らかにした．この緩やかな構造は南北15km，東西10kmに及んでいる(永広ほか2001；吉原ほか，2001)．今回の研究地域は，葛巻 - 釜石帯の南東端にあたる岩手県宮古市西部で，これまでの調査地域を含む，南北15km，東西15kmに及ぶ範囲である．その結果，緩やかな構造がさらに北西へも及んでいる事がわかった．また，葛巻 釜石帯の付加体の付加年代は，北部北上山地全域が白亜紀花崗岩類の熱変成を被っている影響で放散虫データに乏しいこともあり，十分に明らかにされていなかった．しかし，今回の研究で，本地域におけるチャート 碎屑岩シーケンス中の泥岩のマンガンノジュールより *Laxtorum* (?) *jurassicum* 帯をなす放散虫を見出し，付加年代は中期ジュラ紀 Aalenian である事がわかった．

本地域構成岩類は，泥岩，砂岩，チャート，珪質泥岩を主体とし，少量の石灰岩，塩基性火山岩，混在岩を伴う．各露頭の層理面は一般に NNW - SSE 走向，高角西傾斜である．しかし，尾根から斜面にいたるまで調査し，構成岩類の種類・量比によってユニット区分を行い，ユニット地質図を作成すると，ユニットの構造は，従来示されていたような様に高角な構造ではなく，東部のチャート，泥岩卓越地域では高角構造を示すが，中部から北西部の碎屑岩，チャート卓越地域では露頭オーダーの構造とは異なる，低角構造を示すことがわかる．また，南西部は剪断をうけた泥岩からなる．

東部はチャートスラブを含む泥岩卓越ユニット，チャートユニット，混在岩ユニットからなる．ユニット構造は露頭の構造と見かけ上調和的で，NNW-SSE 走向で高角西傾斜の構造である．ユニット境界はスラストと考えられる．チャートスラブは幅数百m，長さ1kmである．チャートユニット中には，ブロックとして石灰岩礫岩，火山岩を伴う．石灰岩礫岩からは中生代を示す六放サンゴ(永広ほか，2001)が得られている．混在岩は泥質基質中にチャートや砂岩の岩塊を含む．

中央部から北西部にかけては，構造的下位側では碎屑岩が卓越し，上位側ではチャートユニットと碎屑岩ユニットの繰り返しからなっている．東部地域との境界ならびにユニット境界はスラストと考えられる．ユニット群の構造は，露頭の構造とは不調和な低角構造である．厚さ数百mから1kmのユニットが，ユニット間の構造的層序関係を保ちながら山田町西部から川井村集内まで約30km連続している．しかし，構造は一樣ではなく，NNW-SSE 方向に伸びる中程度傾斜帯もあり，各ユニットは，翼間角が140°以上の大規模な開いた褶曲構造をなしていると考えられる．褶曲軸の方向は，調査地域の東側では大局的に NNW-SSE 走向，北西側では EW 走向に変化する．碎屑岩卓越部最下部のチャート 碎屑岩中の泥岩のマンガンノジュールからは後期 Aalenian (吉原ほか，投稿中)，上部の泥岩中のマンガンノジュールから Aalenian を示す放散虫が得られた．

明瞭なリアメントを境にして南西部へは，中央部から北西部のユニット群は連続していない．南西部は，泥岩が卓越しており，層理面と平行な NNW-SSE 走向の高角な劈開が発達している．また，劈開方向に伸びている火山岩や凝灰岩，チャート，砂岩の薄いスラブを挟む．

安家 田野畑帯は波長数 km～10km の東に倒れた軸面を持ち，閉じた転倒褶曲構造を呈すのに対し，本地域の葛巻 釜石帯の褶曲は，非常に緩い．また，従来安家 田野畑帯中の碎屑岩から得られている放散虫が，中期ジュラ紀後期から最前期白亜紀であることから，北部北上山地ジュラ紀付加体における碎屑岩の年代は，東側に向かい若くなっている事が示唆される．